

## 【山陰インバウンドニュース 11月号】

令和3年11月30日  
 (一社) 山陰インバウンド機構

地域が主体となった持続的な観光商品の開発を支援

### 境港市で地域事業者を対象とした研修会を開催しました

山陰インバウンド機構では、観光で地域を活性化することを実現するため、山陰ならではの資源や地域の特色を活かした「新たな観光サービス」創出支援を行い、地域が主体となった持続的な観光商品の開発・改善を促進する取組を進めています。

今年度はその具体的な取組として、山陰の各エリアにおいて、本年3月に当機構が発刊した「観光商品開発マニュアル」を活用した研修会を順次開催しており、11月17日に境港市の夢みなとターミナルで開催した同研修会には、境港市の観光、交通、金融、行政関係者、約29社（うち、オンライン参加者11社）が参加しました。

最初に中国地域創造研究センターの野澤研究員が、「観光商品開発マニュアル」を用い、「観光」を活用した地域活性化の進め方を解説。野澤氏は、「最新の調査結果では、訪日経験のある欧米豪・アジアの居住者の9割近くがコロナ収束後に海外旅行に行きたいと回答しており、コロナ収束後は必ずインバウンド観光客は戻る」と述べ、観光需要回復に備え、地域の良さが発揮できる観光商品の造成や受入環境の整備に、地域主体で取り組んでいくことの重要性を説明しました。

続いて、通訳案内士のマックウエル・萌野氏より、現在、境港市で取り組んでいる観光コンテンツ（商品）開発の内容について報告。その中で、「国内向け観光商品とインバウンド向け観光商品では、受入側の負担の差が非常に大きい。これまで多くの団体が、モニタツアーやプロモーション等に取り組んできたが、受入側の負担に十分に配慮しなければ、地域の主体的かつ継続的な取組には繋がらない」と、インバウンド向け商品を造成・販売していく上での留意点等について経験談を交えて説明しました。

第2部では、講師の株式会社マックスサポートの生田翔氏が、Googleマップ上に店舗情報等の検索結果が表示されるGoogleマイビジネス活用方法等について解説。生田氏は、「Googleマイビジネスは、国内外の観光客に対して非常に効果的なツールである。宣伝効果も期待でき、個々の事業者が同ツールを活用することで、境港エリア全体の認知度向上にも繋がる。」とその有効性を説明しました。

当機構では、次年度以降の他エリアでの横展開も想定し、引き続き、Googleマイビジネスの活用策等を検討していく予定です。



雲南・奥出雲エリアで観光による地域振興の取組を関係者間で共有

## 令和3年度「観光商品開発マニュアルを活用した地域プラットフォーム事業」中間報告会を開催

当機構では、地域が独自の観光資源を活かしながら主体的に観光商品を開発・改善していく取組を支援する「観光商品開発マニュアルを活用した地域プラットフォーム事業」を山陰各エリアで展開しており、雲南・奥出雲エリアは当事業の対象エリアの一つです。11月25日、これまでの取組を関係者間で共有し、今後の方向性を検討する為の中間報告会が開催されました。

当日は、雲南・奥出雲エリアの観光協会、行政、観光事業者、当機構の関係者等の18名（うち2名はオンライン）が参加。最初に、(株)タビカラのサミーラ氏が、これまで当エリアで実施してきた地域資源の洗い出しや観光商品造成の取組、11月中旬に在日外国人を対象に実施したモニターツアーの結果を報告。ジビエソーセージづくり体験や奥出雲の棚田視察等、地元の地域資源を活用したコンテンツに対するモニター参加者の反応について詳細な説明がありました。

参加者からは、「サステナブルな暮らしという地域の魅力をあますことなく伝えるには、良い面だけでなくありのままを魅せることも必要」「地域の本当の魅力を伝えるためには、観光の取組に前向きではない事業者に対しても具体的なメリットを示しながら理解を得ていくことが重要」といった発言がありました。

今回の報告会で共有された成果や課題については、引き続き関係者間で連携しながら対応していくとともに、他エリアの事業にも反映させながら、事業展開を図っていきます。



雲南広域連合庁舎で開催された報告会の様子

## 「第8回日韓フォトコンテスト授賞式」が開催されました

日韓の写真愛好家が、互いの国の魅力を写真で紹介する「第8回日韓フォトコンテスト」（在大韓民国日本国大使館公報文化院、山陰インバウンド機構、鳥取県ほか共催）の授賞式が20日、オンライン形式で開催されました。

KIM Seulgi（キム スルギ）さんは、1年間の日本留学中に撮影した宍道湖の写真で山陰賞を受賞。「新型コロナウイルスの影響が落ち着いた後、私の写真をきっかけに多くの人が山陰を訪ねてくれると嬉しい」とコメントを寄せました。

当機構としても、このフォトコンテストをきっかけとして多くの韓国の方々に「山陰」への興味・関心を持って頂き、コロナ禍の終息後にお越し頂ければと願っております。（その他の受賞作品や授賞式の様子は、日韓フォトコンテストWEBサイト<<http://jkphotocon.org/>>でご確認いただけます。）

### <「山陰賞」概要>

優秀作品応募者に日韓両国の企業及び地方自治体等が提供する賞品を授与し、優秀作品は在大韓民国日本国大使館公報文化院に展示されます。当機構は「山陰賞」を提供しています。



<タイトル>夕日が映える宍道湖  
<受賞者>KIM Seulgi  
<商品>山陰豪華ギフトパッケージ  
(鳥取・島根の日本酒・工芸品等)

<作品説明>  
島根県立美術館周辺の公園で撮影

【12月9日開催】山陰インバウンドセミナー

## 「観光を通じた地域起業の挑戦」開催のお知らせ

インバウンドによる観光消費の拡大、地方の雇用確保や地域づくりなど、今後の山陰地域の活性化に観光が果たす役割は非常に大きいものと考えます。このような考えのもと、山陰インバウンド機構では、持続的に観光地域づくりに取り組むことができる人材や、地域で新たに観光事業に挑戦する人材の育成に取り組んでいます。

今回のインバウンドセミナーでは、隠岐諸島の海士町に移住し、これまで当地で観光振興と島全体活性化に取り組んでこられた青山敦士氏を講師にお招きし、「観光まちづくり」を進めていく上での課題や留意点等について、ご講演いただく予定です。

今後、自ら観光ビジネスを展開されようとしている学生や社会人の方、現在観光事業に携わっておられる方など、観光ビジネスや地域づくり・地域活性化に関心のある皆様にとって、大変参考となる内容となっておりますので、奮ってご参加ください。

記

◇日時：令和3年12月9日（木）13：30～14：30

◇演題：「観光を通じた地域起業の挑戦」

◇講師 青山 敦士 氏 (Entô CEO (株)島ファクトリー 代表取締役)

◇開催方法：Web サービス「ZOOM」のウェビナー機能を利用

◇参加費：無料

◇参加方法は、当機構WEBサイトをご参照ください。

[https://www.sanin-tourism.com/news\\_dmo/7969.html](https://www.sanin-tourism.com/news_dmo/7969.html)

## 「With コロナ時代を切り抜けるために山陰の宿泊施設と観光地が今できること～じゃらん宿泊旅行調査 2021 からの考察～」の動画を公開しました

11月10日、「With コロナ時代を切り抜けるために山陰の宿泊施設と観光地が今できること～じゃらん宿泊旅行調査 2021 からの考察～」と題し、オンライン上でインバウンドセミナーを開催しました。

当日は、じゃらんリサーチセンターの沢登センター長を講師にお招きし、じゃらん宿泊旅行調査結果等の考察を交えながら、今後の宿泊施設や観光地経営が意識すべきポイントについてご講演いただきました。

沢登講師は、今後は「コロナ前の観光を取り巻く環境を踏まえた10年先を見据えた戦略と、新型コロナ禍で変化する環境を捉えた戦略、この二つを意識する必要がある」と解説。

また、観光の地域活性化に資する役割を意識し、観光客の消費単価や滞在期間を延ばすための戦略を地域全体で考えていくことが重要であると述べました。

セミナーの様子は、機構の公式 YouTube チャンネルで公開していますので、見逃された方は、是非、ご視聴ください。

【機構公式 URL】 [https://www.youtube.com/channel/UCx4vy7n85H44dEzx\\_1I2VJg](https://www.youtube.com/channel/UCx4vy7n85H44dEzx_1I2VJg)

山陰DMO

検索

## 観光関連統計等

山陰への訪日外国人延べ宿泊者数※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への訪日外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2021年8月	1,690人泊（鳥取780人/島根910人）	(2020年8月) 1,690人泊 (2019年8月) 19,530人泊
日本全体の現状 2021年8月 (速報値)	587,490人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 <a href="https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/tokei/shukuhakutoukei.html">https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/tokei/shukuhakutoukei.html</a>	(2020年8月) 251,260人泊 (2019年8月) 9,486,460人泊